

# 小学校 特別活動

## 事例

### 6 学年 学級活動（１） 「互いの考えを伝え合い、議題を決めよう」

本時のねらい：学校生活を居心地よく過ごすことを目指し、話し合う議題を設定することができる。

#### よりよい学級にしていくためにみんなで話し合う議題を決める

##### ○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・学級の問題を自分事として捉え、多様な他者の考えや立場を尊重しながら、議題を決めようとする姿
- ・よりよい学級にしていくための合意形成に向かう場面で、自分の思いと他者の思いに折り合いをつけようとする姿

こんな姿を引き出すために・・・

#### 学習課題の工夫

##### ○本実践の学習課題（議題）の工夫

（１）議題の決定を学級会で行う。

本事例では議題の選定・決定自体を学級会の目的としている。議題の選定・決定を学級会にて全員で行うことで、学級の問題をより自分事として考えるようにしている。

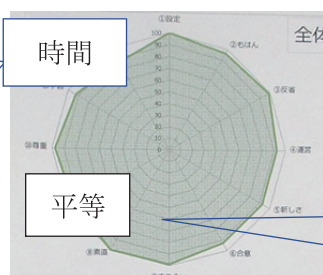


議題の決め方についても話し合う。

（２）一人一人がレーダーチャートを分析し、学級の課題を考える。

学級力アンケートを基に作成したレーダーチャートを一人一人が分析し、12の項目の中で一番課題となる項目（議題にしたい項目）とその理由を個人で考える。

私は「時間」について話し合いたい。まだまだ守れていないと思うし、時間を守れば、余裕ができて、新しいことにチャレンジできる。



年3回実施する学級力アンケート。12の項目があり、レーダーチャートに対応している。

「平等」を議題にしていきたい。ケンカとかはないけれど、なんとなく上下関係を感じてしまうことがあるから。

#### ICTの活用

##### ○本実践のICTの活用

- ・合意形成に向けての活用

学習支援ソフトを活用し、児童一人一人の議題についての意見を集約、比較、分類する。また1人1台端末は過去のレーダーチャート等のデータ資料を利用しやすく、自分や学級の成長や変化を振り返る時にも有効である。



各自の意見を大型モニターに表示し、比較する。

# 中学校 特別活動

## 事例 1

### 3 学年 学級活動(2) 「仲間のために自分ができること」

本時のねらい：学園祭での経験を基に、よい学級にするために自分のできることを決める。

#### よりよい学級にするための自分のできることを決める

##### ○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・学園祭を振り返り、お互いの姿を伝え合う活動を通して、自分の変容や成長に気付き、自分のよさや自分にできることを考えようとする姿
- ・自分のよさを生かすために、卒業までの学校生活を見通し、「どの場面」で、「どのような形」で「どう生かすか」、そのためには「どうすればよいのか」を考えようとする姿

こんな姿を引き出すために・・・

#### 学習過程の工夫



学園祭でのお互いの姿を伝え、自分のよさを考える。

##### ○本実践の学習過程の工夫

- ・学級活動(3)との関わりを意識した学習過程(計画)  
よりよい学級を目指す学級活動(2)の内容を中心としながら、学級活動(3)の自分のよさやよりよい自分の姿を考える活動も取り入れている。  
また、キャリア・パスポートは、記述して終わりにせず、話し合いの際の資料として活用した。キャリア・パスポートを振り返り、今年の学園祭だけでなく、昨年度の学園祭の活動履歴や思いに触れたりすることで、自分の変容や成長に気付く資料になる。

#### ◎ 学園祭の経験を生かし、クラスのためにできること

副ブロック長として、ブロックの劇を成功させることができた。

キャリア・パスポート

学園祭の振り返り

いろいろ声掛けをしたことで、みんなを励ましていたんだ。

友達からのアドバイス「いつも声を掛けてくれから頑張れた」

グループでの話し合い

人を勇気付けたり、励ましたりすることができる。

自分のよさ

#### 意思決定

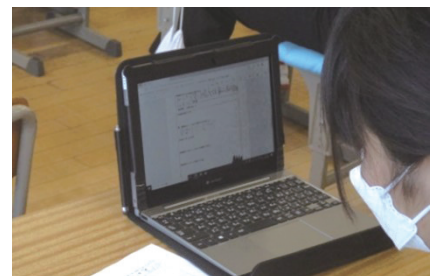
合唱や卒業に向けての取組で、友達に声を掛けていこう。

できること

#### ICTの活用

##### ○本実践のICTの活用

- ・1人1台端末でのキャリア・パスポートの利用  
話し合いをより効果的にするために、キャリア・パスポートの必要部分をPDF化し、1人1台端末に保存する。他の資料と比べてみたり、話し合いの際に友達に見せて説明したりする。



1人1台端末でキャリア・パスポートや資料の情報を確認する。